

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年10月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	<u>グループホームあらた</u>
所在地	鹿児島市荒田1丁目51-14 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	令和5年 9月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者は人生の大先輩であることを念頭に、利用者がこれまで積み重ねてきた人生経験を活かしながら、可能な限り自立した生活を送る事ができるよう、共同生活の強みを生かし、職員も一緒に生活を作るという思いで支援させていただいております。

・利用者の健康管理については、予防を重点的に行っています。日常生活動作維持のための生活上でのリハビリ、テレビを活用したリハビリ体操、認知症の進行予防のための脳活性レクリエーションや季節行事等、様々な場面で利用者の持つ能力を活かし楽しみながら予防ができるよう努力しています。

・食事は職員が全て手作りで提供しています。食材は旬のものを取入れ、地域の商店から取り寄せ地域資源を活用しています。また、日常会話やアンケートから利用者の食べたいものを聞き取り献立に取り入れたり、利用者個々の好き嫌いを把握し代替品を提供する等、利用者にとって大きな楽しみである食事を利用者全員が満足いただけるよう努力しています。

・サービス内容や運営については、職員間で情報の共有を徹底しています。また、毎月全職員で「ケア検討会」を開催し、利用者一人ひとりのケアについて議論し、介護サービス計画の評価、検討、見直し、実践を繰り返すことで一人ひとりのニーズに応えられるよう努力しています。

・身体拘束等適正化・虐待防止・安全対策・感染症対策委員会を設置しています。年間委員会開催計画を立て実施し、利用者の安心・安全・尊厳ある生活を守っています。

・運営推進会議を2か月に1回実施し、ホームの運営状況、課題となっている事項を議題として提起し委員よりの貴重な意見、感想を基に適切な運営、介護サービスに活かしています。また、事故発生時は事故内容を報告し、多方面からの意見により事故の予防を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市街地である鹿児島市荒田地区に平成18年に開設されている。道路斜め向いには法人母体でホームの協力医療機関があり、日頃から密に連携を図って治療や健康管理を徹底しており利用者や家族の安心に繋がっている。周辺には医療機関や金融機関、小・中学校、コンビニをはじめ多種の商業施設、マンション等が立ち並んで利便性は良い。

開設以来、地域との交流を理念に掲げて大切に取り組んできているが、現在はコロナ禍等の感染予防に配慮して多くの交流を自粛している。玄関のドア越しで家族の面会を実施し通院、幼稚園児や小学生からのプレゼント、野菜等の差し入れ、住民からの高齢者福祉や認知症ケア、施設見学等の相談への対応は丁寧に継続している。今般コロナ感染症が5類に移行されたこともあり、近日開催予定の荒田校区文化祭には利用者の作品(ぬり絵)出展での参加を予定している。災害時の自動通報装置には民生委員や地域住民も組み入れて協力体制を構築しているが、訓練への参加は現在は控えている。コロナ禍やインフルエンザ等の感染状況が沈静化したら外出や地域との交流の機会を増やしたい意向である。

管理者及び職員は、ホームの理念やケアの目標をリビング、スタッフルーム等に掲示して周知を図り、「利用者は人生の大先輩である」ことを常に意識して、尊厳や人格、想いを大切にしたい利用者主体のケアに努めている。利用者及び家族からの意向や要望をケアの中や面会、電話、ライン等で丁寧に汲み取り、ミーティング等で協議して改善に努めており、アンケートの結果からも家族との信頼関係が築かれている状況が窺える。日々の生活も可能な限り自立した生きがいのある暮らしとなるよう各利用者の思いや生活習慣等に配慮しながら、意向に沿って趣味などの個別の支援にも努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域とのつながりを大切にする」という当事業所の理念を掲示し、ミーティングや内部研修等で全職員が把握しながら、地域との関係性を継続している。コロナ過で不十分ではあるが、地域ボランティアや小学生、幼稚園児との交流が再開できるよう関係性を継続している。	ホームの理念をリビングやスタッフルーム等に掲示し、申し送りやミーティング等で意義の確認を行って共有している。日常的にケアの振り返りや意見交換を行い、理念に沿った利用者主体のケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ過で実施できていないが、地域の小学生や幼稚園児が来訪し歌や肩たたき等、ふれあいを通じて交流を図っていた。現在は交流ができないため、利用者の制作した作品を小学校の文化祭へ出展したり、小学生や幼稚園児からの手作りのプレゼントをいただく等、できる範囲での交流を継続している。また、地域の回覧板にて地域の情報を共有している。	コロナ禍に伴い地域との交流も自粛することが多々あるが、自治会に加入して地域の情報を把握している。面会の実施や幼稚園児や小学生からのプレゼント、通院、農産物を頂くなどの交流を継続している。また、地域住民からの認知症や高齢者福祉に関する相談や施設見学等にはパンフレット等も活用して丁寧に対応している。コロナやインフルエンザの感染状況を把握しながら徐々に外出や地域交流の機会を増やしたい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	現在は感染予防のため実施できていないが、地域の住民を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催している。また、校区社協、民生委員の選出活動等に参加し、専門性を生かした地域への貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プライバシーに十分に配慮した上で、ご利用者の生活状況やインシデントについて詳細に報告、更にサービス提供情報、行事等の報告、事業所が抱える様々な問題点について協議テーマを設け、幅広い意見を受け、ホームの運営やサービス向上に活かしている。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら2か月に1回の開催を再開している。	コロナ禍の状況により書面会議に変更したこともあるが、現在は家族、民生委員、町内会長、時には消防署、警察等も参加して隔月毎に開催している。ホームの現況や行事、インシデント、ヒヤリハット、ホームの課題、防犯対策等の報告及び協議等を行ない委員からも質問や意見が活発に出されている。職員は会議内容を共有し、業務の改善やサービスの向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当課へ事業所の運営状況や運営規定の改定、事故の報告等を随時行い、指示を仰いでいる。また、待機者情報や事業所が抱えている問題点等、市役所の担当者へメールや電話でのやり取りを継続し情報共有を行っている。	市役所の窓口に出向いたり電話、メール、FAX等で介護保険や各種制度、コロナ禍対応の相談や協議を行うなど日頃から協力関係を築いている。市からの連絡事項の把握やリモート研修等に積極的に参加して改善に取り組んでおり、管理者は地域ケア会議の役員も担っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設置し、年5回開催している。議事内容は回覧しミーティングで発表している。また、年2回内部研修を実施し、全職員が身体拘束の対象となる行為や、もたらす弊害について理解している。	身体拘束適正化の指針を整備し、適正化委員会（3カ月毎と年度末に年間の振り返りの会議）の開催やミーティング等で事例研修や意見交換を実施して認識を共有している。日頃の見守りや対話、サイン等で利用者の思いの把握に努め、各利用者に対応した拘束のないケアを工夫しながら取り組んでいる。スピーチロックには日頃から留意し、不適切な発言やケアにはその都度助言や話し合いで改善を図っている。人感センサーの使用についてはプランに反映させ家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、身体拘束等適正化委員会と併行して委員会を開催、議事内容は回覧しミーティングで発表している。毎月開催しているケアカンファレンスにおいても日々のケアで精神的な虐待につながる声かけや対応がないか議論し検討を重ねている。また、年に2回の内部研修を行い、全職員が虐待防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者はいないが、年に1回権利擁護に関する制度について内部研修にて学び、利用者の人権を守る上で重要な制度である事を全職員が理解している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には利用者とその家族が理解しやすいよう、重要事項説明書、運営規定、情報提供項目等を用い、わかりやすく説明するよう努めている。また、利用者とその家族が不安や疑問点について尋ねやすい関係性を平素より築き上げることを重視している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や面会時、その他来訪時に、利用者や家族が気兼ねなく意見や要望を伝えることができる関係性を築き上げるよう努めている。また、1階エントランスには意見書BOXを設置し、直接でなくても遠慮なく意見や要望を伝えられるように環境を作っている。	利用者や家族には意見や要望を出し易いように日頃から雰囲気づくりを心掛け、一階には意見書BOXも設置して忌憚なく意見を出して貰うように努めている。利用者の思いは日頃の会話や仕草、年1回の利用者アンケート（食事や入浴、面会、孤独感など約20項目）の実施で汲み取り、また、家族からは面会や電話、手紙、ホーム発行の「あらた新聞」で利用者の状況を伝えて意見、要望の把握に努めており、ミーティング等で協議して改善を図っている。出された意見等の処理顛末は家族にも開示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に運営者と職員の間で個別面談を実施、運営側に対する意見や提案を述べる機会を設けている。運営者、管理者はその貴重な職員の意見や提案を運営に反映しながら、皆で作り上げる事業所を目指している。	管理者は、日頃の業務の中やミーティング、個別面談等で意見や要望、悩み等を把握し、必要に応じて法人本部とも協議しながら改善に努めている。日常的にケアへの助言や研修を実施し、休憩時間の確保や勤務シフトには有給休暇の取得促進及び個人的事情にも配慮するなど働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、職員との協力関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業年数に応じた昇格制度や資格手当等を設け、職員の意欲、意識の向上につながるよう職場環境の整備に努めている。職員間で協力し、定時での出勤、退勤ができている。、また、有給休暇も管理者と相談しながら職員全員が気軽に取得できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、経験のある職員による新人教育、基礎研修等を通して、職員の経験や段階に応じた教育を行っている。新人職員から学ぶことも多く、初心を忘れないようその力を他職員にも活かせるよう工夫している。定期的に内部研修、OJTを実施し、働きながら知識を身に付けることができるよう取り組んでいる。また、現在は感染予防のため外部研修にはWEBでの参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム連絡協議会に加入しており、協会が主催する研修に積極的に参加している。また、鹿児島市支部の役員を務め、研修の運営にも力を入れている。研修や委員会を通して多数の事業所とネットワークの構築や情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至る前から、本人、家族とこれまでの生活歴や暮らし方、利用するに当たっての不安や要望等をうかがっている。また本人の状況、入居後の生活における不安や支援の要望等、専用の用紙に記入を依頼し、それを基に入居日までに職員間で検討、支援内容や環境等の準備を行い、入居時に本人が不安や混乱なく新しい環境に馴染めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みをされた時点で、家族が不安に思っている事や要望、予後についてうかがい、傾聴し、抱えている問題や不安と向き合っている。また入居が決まってから入居日までの期間、入居後も密に連絡を取り合い、家族が安心してサービスの利用に至ることができるよう関係性の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や在宅ケアマネ、施設ケアマネやソーシャルワーカー、看護師等各関係者から情報を収集し、グループホームでの支援が可能か否かを一緒に見極めながら、他のサービスの選択肢についてもアドバイスをを行い、家族がしっかりと理解し納得した上でサービスが利用できるよう説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な経験や豊富な知識を持っている利用者から学ぶことが多く、日常業務にそれを活かしながら、また利用者がやりがいを感じ、生きることの意欲を持てるよう、感謝し尊敬し生活を共にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との関わりの中で、職員や他利用者との日常会話や表情から本人の思いや不安を察し、それを家族に代弁し、一緒に今本人が必要としている支援や生活への要望を検討している。職員は家族の力が必要不可欠であることを念頭に置き、無理のない範囲で家族の協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染予防のため外出や面会の制限中であるが、電話やLINEを活用したテレビ電話、手紙等で家族や知人、友人との交流ができるよう工夫して支援している。また、YouTubeやDVD、写真や動画にて馴染みの土地や地域の行事等を視聴、閲覧できるよう支援している。	利用者毎の家庭環境や馴染み等に関する情報を把握している。コロナ禍に配慮しながら面会や通院、電話やラインを活用しての会話、手紙等で家族や友人との交流を支援している。園便りでも利用者の近況を写真やコメントで伝え、電話や手紙の取り次ぎも行ない、馴染みの場所や地域のイベント等の動画も視聴してもらうなど関係の継続に努めている。世の中の感染状況を把握しながら、以前実施していた花見のドライブやマラソンの応援等を徐々に再開したい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を把握し、日々の生活の中での家事活動やレクリエーション、行事等、協力しながら作り上げることができるよう環境整備、支援を行っている。また、日常のコミュニケーション上、利用者間で口論やトラブルに発展する場面もあるが、利用者の喜怒哀楽を大切にしながらそばで見守り、仲介を行っている。また他者とのコミュニケーションが苦手の利用者には職員が寄り添いながらコミュニケーションを無理強いせず、一人ひとりの個性を大切に支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する以前より、家族、他施設や病院の看護師、ケアマネージャーやソーシャルワーカー等各関係者と密に連絡を取り、スムーズに転居ができるよう努めている。退居後も家族や関係者と連絡を取り合い、本人の状況についての情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や言動、表情等利用者一人ひとりの思いや支援への要望について毎月実施しているケアカンファレンスや、プラン見直し時、担当者会議、また利用者にアンケートを取りまとめ、随時検討し画一的な支援にならないよう工夫している。思いや要望を言葉や文字で表現できない利用者に対しては、生活歴や性格、家族からの情報等をもとに本人の思いを汲み取り、必要としている支援を見出せるよう努力している。	日頃から利用者が感情を表出できるケアに努め、思いや意向に関わりの中やアンケートの実施等で把握し家族の意向も確認しながら、自己決定を尊重した、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の意向に沿って生きがいとなる趣味（チラシで箱作り、テレビや音楽の視聴他）や家事（調理の手伝い、下膳等）の取り組みを、心身の状況に配慮しながら取り入れ、個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に生活歴や馴染みの物や嗜好品、これまで利用していたサービス経過についての情報等詳細に聞き取り、また専用のシートへの記入を本人、家族に依頼し、それを基に職員は支援や環境作りに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス実施記録、健康記録、申し送りノートには利用者の日々の状況を詳細に記入し、心身状態や過ごし方の変化等の現状を把握している。勤務交代時には、支援が偏ったり個人差が出る事のないよう、利用者一人ひとりのその日の情報を詳細に申し送り、引き継いでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しに際しての担当者会議については感染予防のため、事前に担当者からの情報を集め、家族とは電話やLINEを駆使しながら工夫して行っている。また、毎月開催しているミーティングや、個別ケアカンファレンスで職員からの情報をもとに生活上の課題や支援について検討し、ケアプランに活かしている。	本人及び家族の意向や主治医の指導、担当職員によるアセスメントシート、ケアカンファレンスやミーティング時の職員意見等を基に生きがいや楽しみ事にも配慮した利用者主体の介護計画を作成しており、ケアの実施状況は申し送りや「業務日誌」「各種のチェック表」等で共有している。定期的な見直しに加え心身の変動時には、実状に即した計画に変更して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、実践後の成果や気づき、課題等、個別介護サービス実施記録や申し送りノートに詳細に記録し、全職員で共有している。計画作成担当者は、毎月のケアカンファレンスや記録物、職員からの情報を基に支援経過記録を作成し、モニタリングを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の健康管理は連携先の病院にて行っており、1か月に1回は定期受診、訪問診療を行っている。専門の医療が必要な時は他科受診や、利用者個々のかかりつけ医への受診ができるよう、家族の協力のもと臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のため現在は中断しているが、地域のボランティアや小学生、幼稚園児の来訪にてレクリエーションやふれあい等の交流を継続している。また、食材の発注は、利用者とも顔なじみである地域の米屋や精肉店、鮮魚店、豆腐屋等を利用し地域資源を有効活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の情報を得ておき、受診が必要な時は本人、家族の希望を優先し、希望する医療機関が受診できるよう支援し、適切な医療が受けられる体制を構築している。	各利用者の病歴を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、定期的な通院や訪問診療が実施され、他科受診（主に眼科）については家族と連携しながら対応する等、適切な医療が受けられている。日頃から衛生や健康管理に努め、協力医療機関との医療連携の体制も構築されて、利用者及び家族は安心して暮らしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の利用者の変化に気づいた時点で看護師へ報告、相談し、看護師は介護職員、管理者と検討し必要時には主治医へ報告し適切な診察、治療、処方を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院への情報提供がスムーズに行えるよう日頃より利用者個別のサマリーを準備し、随時更新している。管理者兼計画作成担当者が入院先の看護師、ソーシャルワーカー等関係者と密に連絡を取り情報を収集し、職員に情報共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で重度化した場合や終末期の支援について本人、家族に説明し、納得したうえで同意をいただいている。終末期は自宅で過ごしたい希望がある場合や、グループホームでの看取りを希望される場合はできる限り本人、家族の希望に添えるよう支援している。	重度化や終末期の対応については指針を整備し、利用開始時に本人及び家族に説明して同意を得ている。疾病の状態は随時家族にも伝えて共有し、重度化した時点で家族及び関係者は十分に話し合っ入院や自宅での看取りを含め可能な限り希望に沿った支援に努めている。これまでも7件の看取りを家族と協力して実施しているが、最近では殆どの利用者が入院を選択している。重度化や急変時対応の研修も実施して職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し掲示、また、全職員が対応できるよう内部研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震を想定した日常防災訓練（マスク、防空頭巾着用）を毎月実施している。また、年2回、消防隊員立会いの下、消防訓練を行っている。感染予防のため地域住民の訓練参加は休止しているが、訓練後は消防隊員からの評価を受け、改善点を見出している。	年2回（1回は消防署立ち合い）、夜間想定も含む火災や風水害、地震発生時の防災訓練を実施し、訓練の評価や災害時の留意点等を研修している。毎月の自主訓練は様々な災害パターンを想定して実施し、日頃から避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換するなど、災害対策への認識を共有している。地域との協力関係が構築され民生委員や家族等も組み入れた連絡網が整備されている。スプリンクラーや自動通報装置等が設置され、災害時の食料や飲料水、介護用品はリストを作成して備蓄し、防犯にも配慮して防犯カメラやサス股も備えている。BCPは既に作成済みで運営規定（26条）に記載している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居時に本人、家族が記入したアセスメントシートからの情報や日々の生活の中で見出した一人ひとりの性格や気質を共有し、プライドやプライバシーに配慮した声かけ、支援を行っている。毎月の個別カンファレンスでも利用者一人ひとりへの対応についての検討を重ね実践している。また日頃の利用者への声かけや支援で気になる事はその都度指摘し合える職員間の関係ができています。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、運営規定や利用契約書等に明記され、研修の実施やミーティング等でケアの振り返り、意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。排泄や入浴時の支援は人格や羞恥心に特に配慮し、日頃から利用者の残存機能や生活習慣、個性等を尊重した支援に努めている。利用者に関する台帳等も事務室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の入居に至る以前の生活パターン、リズムを把握し、利用者一人ひとりが「自分の時間」を継続することができるよう個別で支援や環境作りを行っている。起床時間や就寝時間、食事や入浴のタイミング等、利用者の個性に合わせて画一的な支援にならないよう臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者が好んでいる、また着やすい衣類を本人が選択し、着用できるよう職員は見守り、支援している。その中で、季節や気候に合わない衣類を選択したり着用している時は、自尊心や羞恥心に配慮しながら着替えていただけるよう声かけ、支援を行っている。また、「今日の洋服素敵ですね」「お似合いです」等本人の意欲や気持ちが向上し前向きになれる声かけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材や利用者アンケートでの希望のメニューを献立表に盛り込み、全て職員が手作りで提供している。利用者アンケートでは食事の量や硬さ、味付け等の意見を取り、食事作りに活かしている。また、現在は感染予防のため職員は別のテーブルで食事を摂っているが、本来は職員も利用者のテーブルで間に入り一緒に食事を摂りながら感想をうかがっている。食前後のテーブル拭きや、食後の下膳、お膳拭き等は希望される利用者と一緒にやっている。	食事は利用者の何よりの楽しみで関心も高いことから、好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限、代替品等に配慮して調理している。季節毎の行事食（お節、彼岸、誕生会他）もホームで調理し出前の寿司、屋上での弁当、手作りのおやつ等工夫しており、利用者もテーブル拭きや片付け等を自発的に楽しみながら取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時やお茶の時間に利用者一人ひとりの摂取状況を確認、健康記録にチェックし栄養バランス、状態を把握している。食事や水分量が不十分な利用者には栄養補助食品や健康飲料等を提供し利用者個々に工夫した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性（虫歯予防、誤嚥性肺炎の予防、嚥下力の維持）を利用者・職員は理解し、毎食後、起床後、就寝前の口腔ケアの声かけ、支援を徹底している。口腔ケア時は利用者のセルフケアを見守り、仕上げ磨きの支援を職員にて行っている。その都度口腔内の確認を行い、痛みや異常がある時は看護師、主治医へ報告し、必要時に協力歯科にて治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	長期プラン見直し時や状態変化時等その都度、排泄パターンシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、声かけや案内支援につなげることができている。また、トイレでの排泄が成功している利用者はリハビリパンツから布パンツへの移行や、尿取りパッドが必要かどうか等その都度本人、家族とも検討し排泄の自立を支援している。	利用者毎の排泄リズムや習慣を把握しており、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援し、3人の利用者が夜間のみポータブルトイレを使用している。心身の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めており、介護用品の消費減少やリハビリパンツから布パンツへの改善もみられている。便秘の予防に乳飲料の提供や水分の摂取、植物繊維の多い食材、運動量等に配慮して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や乳製品、繊維質の多い食材を献立に盛り込む等、できるだけ薬に頼らずに自然に便秘予防ができるよう工夫している。また、毎日の体操や屋内運動で、運動量の確保により便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者一人ひとりに入浴のタイミングを開き、その都度変化する利用者の状態や気分に合わせて順番や入浴日を臨機応変に変更、対応し、職員主導にならないよう工夫して入浴支援を行っている。また、入浴日にはホワイトボードに名前を掲示し、利用者が自分で入浴準備や心構えができるよう工夫している。	週2回の入浴を基本に、清拭や足浴等も取り入れながら清潔を保持している。温度や時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。シャワーを苦手とする利用者には常にお湯を溜めて対応し、入浴をためらう場合には無理強いしないで時間変更や声かけ等の工夫で意欲を待つように努めており、入浴が職員との良好なコミュニケーションの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日勤者は夜勤者より利用者一人ひとりの睡眠状況を引き継ぎ、状況に応じて無理のないよう日中にも休息できるよう支援している。また、薬だけに頼らず、夜間に安眠できるよう日中の十分な活動を促したり屋上で日光を浴びる等工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報シートは健康記録に綴り、職員が常時確認できるようにしている。職員は日常の状態変化に早期に気付けるよう用法・用量・副作用等については看護師と常時共有している。誤薬のないよう、配薬、服薬支援時は必ず他の職員と確認を行っている。また、状態変化時は看護師に相談し、主治医への報告を行うことで早急な医療連携ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在はコロナ禍で実施できていないが、本来は季節ごとの行事や、家族との外出、外食、外泊等、利用者一人ひとりが楽しみ、気分転換できるよう支援を行っている。コロナ禍でも利用者が楽しく穏やかに季節を感じながら過ごせるよう、屋内でできる限りの行事やレクリエーションを企画し、実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防のため実施できていないが、利用者アンケートや日常の会話等から一人ひとりが行きたい所を引き出し、外出やドライブ支援を行っている。また、従来はお彼岸やお盆には墓参りや自宅へ家族の協力にて出かける等、個別で行きたい所へ行けるよう家族へ依頼している。外出した雰囲気を感じ取っていただけるようYouTubeでのドライブ動画を閲覧したり、屋上で景色を見ながら散歩をしたり工夫している。	コロナ禍で外出も十分には実施出来ない状況であるが、通院を実施し屋上での日光浴や散歩を取り組み、桜島や眼下の街並み、車の往来等の眺めを楽しんでいる。リビングに季節の花や作品を飾り、馴染みのお祭り等の動画で季節感や外出の雰囲気を感じ取り、室内での体操やゲーム、季節に応じた作品作り等を工夫してリフレッシュを図っている。感染状況を確認しながら徐々に外出の機会を増やしたい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週日曜日に買い物（代行）デーを設けており、利用者一人ひとりの欲しい物や必要な物を聞き、職員が代行で買い物している。本来は、買い物希望される利用者は職員が同行し近隣のスーパーや薬局への買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望する利用者がいつでも気軽に固定電話を利用でき、家族や知人等とゆっくり話せるよう環境を作っている。コロナ禍で面会禁止中（R4年10月1日～エントランスにてバーテーション越しの面会を再開中）であるが、タブレットを活用し、テレビ電話やLINEにて写真を送り合ったり、大切な人とのつながりを感じられるよう工夫している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、環境が利用者に及ぼす影響を理解し、各所の遮光の調整、エアコンや外気による室温調整、テレビや音楽、調理時に出る音、職員同士の会話等への配慮を行っている。リビングテーブルや見える所には季節の花や飾りつけを行い、その時々季節を感じられるよう工夫している。	利用者が快適に過ごせるように随所に活花や利用者の写真、作品等が飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いが感じられて家庭的な雰囲気となっている。リビングは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ、テレビ、畳スペース等が設けられている。ホームはビルの3階部分に設置されており不快な騒音も感じられず、窓や屋上から周辺の街並みや桜島の望めを楽しんでいる。手指消毒薬等の感染予防対策や整理整頓を徹底し、利用者は安全で快適な環境の中で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳スペースやソファがあり、利用者が談話したり音楽を聴いたり新聞や雑誌を読んだりとくつろげる環境を作っている。一人になりたい時は居室で自由に過ごせるよう、支援し居室環境を随時整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や入居以前に暮らしていた場所で使用していた馴染みの家具や装飾品、写真、神棚や小さい仏壇等を、自由に配置でき、安心できる環境で過ごせるよう支援している。配置する中で利用者にデメリットがある場合は検討し環境整備を行っている。	居室はフローリングに腰高窓の構造で明るく、エアコン、ベッド、整理タンス、常夜灯が設置しており、利用者の意向に添って整理整頓を支援している。利用者が戸惑うことの無いように、居室入口やトイレ等には大きな文字で表示するなど安心して生活できるよう工夫している。利用者は自宅で愛用していたテレビや寝具、家族写真、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、居心地良く過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレに表示を設置し、利用者が自分の力で理解し、移動ができるよう工夫している。また、多数の手すりが設置しており、独歩でも安全に歩行ができるよう環境が作られている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある (感染予防のため)
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない (感染予防のため)

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない (感染予防のため)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない